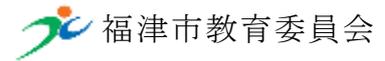


平成31年（令和元年）度 全国学力・学習状況調査結果の概要



全国学力・学習状況調査（以下、本調査）は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に行っています。さらにそのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立していくことを目的にしています。

本調査は、平成31年4月18日に文部科学省が、小学校6年生と中学校3年生の児童・生徒を対象とし、小学校調査は、国語、算数の2教科、中学校調査は、国語、数学、英語の3教科で実施したものです。また、学力調査だけではなく、児童生徒の学習意欲や生活習慣及び学校の状況や取組等についても調査しています。

本調査結果は、文部科学省から、7月23日に都道府県教育委員会と市町村教育委員会に、7月26日に各学校に提供されました。

これを受け福津市教育委員会は、本調査結果の概要を公表いたします。

福津市は、「志をもち、未来をたくましく切り拓く子ども」の育成を目指しています。公表においては国語、算数・数学、英語の学力調査の結果だけではなく、児童・生徒質問紙から福津市が目指す子ども像と関連の深い項目を取り上げています。これは、保護者・地域の皆様に、福津市の子ども達の学力や学習の状況をお知らせすることで、福津市の教育への関心を高め、地域ぐるみで子ども達の育ちを支える「コミュニティ・スクール」の充実・発展につなげたいと考えたからです。

なお、児童・生徒質問紙については、調査結果を基に福津市教育委員会の分析・考察を述べております。この分析・考察はあくまでも一つの側面ではありますが、これを基に子ども達のために何ができるか、何が必要か、保護者、地域の皆様が考える手がかりにして頂きたいと思えます。

平成31年（令和元年）度 全国学力・学習状況調査結果

1 本調査結果の見方

本調査は実施教科のうち国語，算数・数学では，従来の「主として『知識』に関する問題（A問題）」と「主として『活用』に関する問題（B問題）」の区分を見直し，本年度は，一体的な調査問題として構成されています。

国語は，「国語への関心・意欲・態度」，「話す・聞く能力」，「書く能力」「読む能力」，「言語についての知識・理解・技能」をみるものです。

算数・数学は「算数（数学）への関心・意欲・態度」，「数学的な見方や考え方」，「数量や図形についての（数学的な）技能」，「数量や図形についての知識・理解」をみるものです。

また，中学校における英語の調査は，「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の領域が一体的に構成されており，「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」，「外国語表現の技能」，「外国語理解の能力」，「言語や文化についての知識・理解」をみるものです。

2 教科区分毎の標準化得点

※標準化得点・・・全国の平均正答数を100としたときの平均得点

（1）小学校

	国語	算数
福津市	111.2	106.4
福岡県	103.4	100.0
全国	100.0	100.0

（2）中学校

	国語	数学	英語
福津市	101.4	104.2	95.8
福岡県	98.6	99.0	96.6
全国	100.0	100.0	100.0

なお，表内の数値は，各教科区分における標準化得点を示していますが，これらの数値はあくまでも学力の一部であり，本市の教育活動全てを評価するものではありません。

3 調査結果を受けて

本調査結果をみると、小学校では国語が県や全国と比べて上回っています。算数については、県や全国と比べてやや上回っている結果です。

中学校については、国語、数学において、県や全国と比べてほぼ同じか、やや上回っていますが、英語についてはやや下回っている結果です。

今後は、学校ごとの調査結果について詳細な分析を行い、学校全体で分析結果を共有するとともに、学力向上プランの改善、活用に取り組みます。さらに、福津市学力向上スタンダードに基づいた取組、学習規律の徹底や親和的な集団づくり、日々の授業改善等に取り組みます。

また、学校・地域・家庭と連携・共働した学力向上の組織的な取組についても、市内全ての小・中学校で一層推進していきます。

福津市教育委員会としましても、学力向上の取組を推進するために、本調査結果に基づき、授業改善及び授業力向上に資する研修を行っていきます。

数字でみる福津市の子ども【小6・中3】（平成31年4月現在）

福津の子は「志をもち、未来をたくましく切り拓く子ども」として どのような成長を遂げているのか

平成31年4月に小学校6年生、中学校3年生の全児童・生徒を対象に行われた全国学力・学習状況調査の「児童・生徒質問紙」の集計結果をもとに福津市の子どもの実態をみてみましょう。

この結果のみで「志をもち、未来をたくましく切り拓く福津の子」の全容を把握することはできませんが、実態を把握する上での指標となると考えます。

◆ 「認め合い、鍛え合い、創造する子ども」

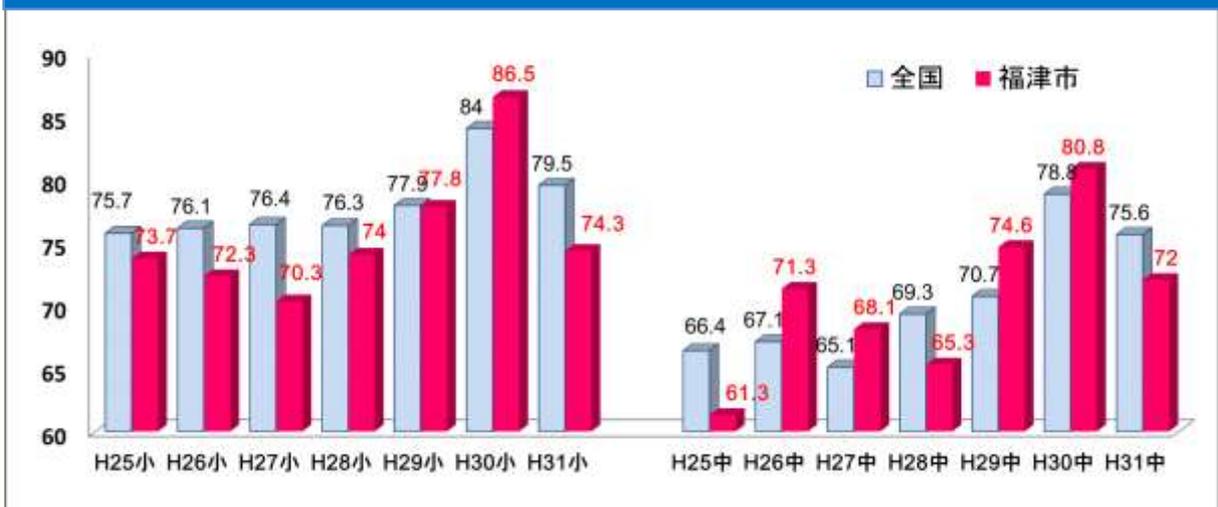
将来の夢や目標を持っている。

（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）



自分にはよいところがあると思う。

（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）



ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。
（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）



学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。
（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）

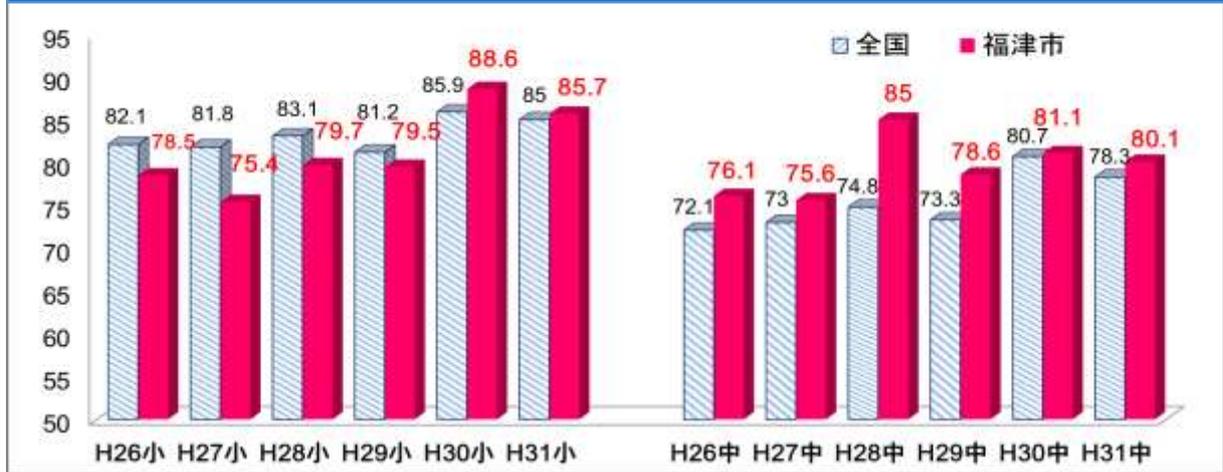


□「夢や目標を持っている」の項目は、小・中ともに全国平均を上回っていますが、「自分にはよいところがある」「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」の項目は下回っています。これらのことから、キャリア教育等の成果により自己実現を図る子どもの成長は見られますので、今後は、活動や実践の振り返り（自己評価や他者評価、教師の価値付け等）を丁寧に行い、自己存在感や自己有用感を味わわせる体験を重視していきたいと考えています。

□「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。」の項目は、中学校で全国平均を上回っているものの、小学校では下回る結果となりました。今後はさらに「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を各学校で重視していきたいと考えています。

◆ 規範意識や社会性を身に付けた子ども

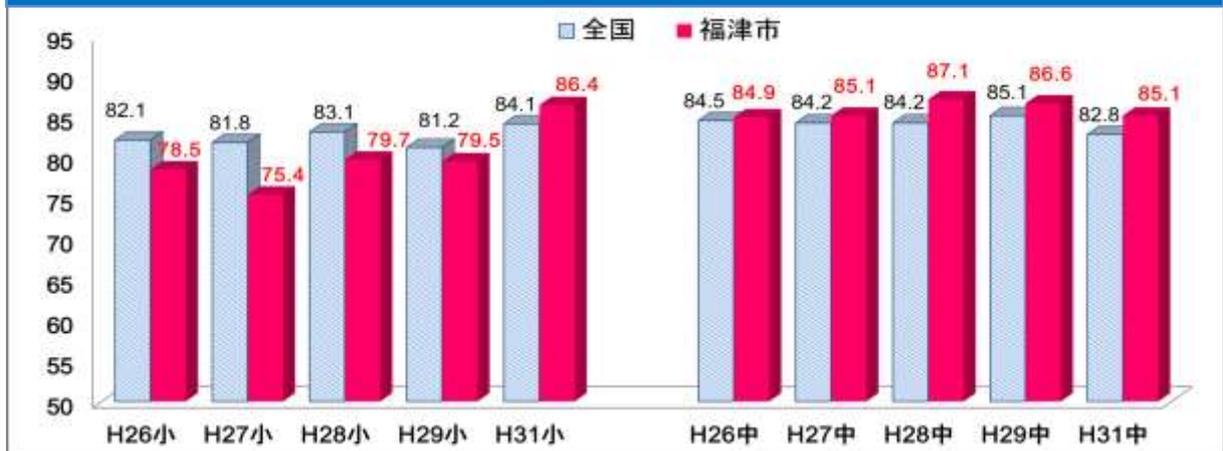
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。（当てはまる）



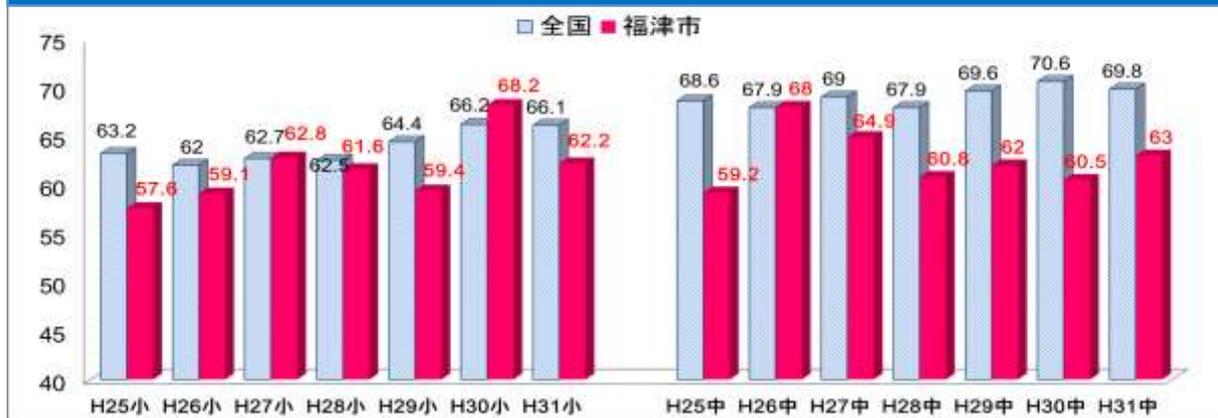
学校のきまり（規則）を守っている。（当てはまる）



学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある。（当てはまる）



平日の家庭学習時間（1時間以上している）



家庭で自分で計画を立てて学習している（当てはまる）



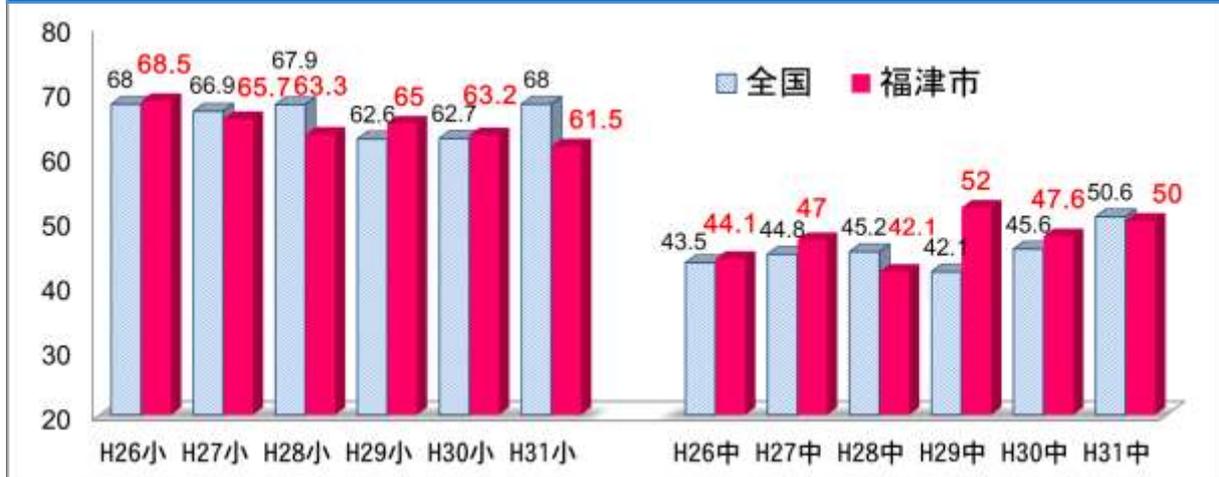
□「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の項目について、小・中ともに80%以上の子どもが「いけない」と判断していますが、15～20%の子どもはいじめを容認したり、相手に非があることを前提として捉えたりしていることが推察されます。いじめはどんな理由があっても許されない行為であるという強い認識をもたせるために、全教育活動を通じて指導していくことが重要であると考えます。また、「学校のきまり(規則)を守る」ことについても、道徳や学級活動を中心に、規範意識を高める授業を充実させていきたいと考えています。

□「学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある」の項目は、初めて全国平均を上回りました。これは、対話活動を重視した授業改善や学級活動等の積み上げの成果であると考えています。今後はさらに、授業や生活の中で、自己存在感を実感させたり、共感的人間関係を育成したり、自己決定の場を与えたりすることで、自己指導能力を高め、豊かな社会性を育む取組を充実させていきます。

□規則正しい生活習慣について、「自分で計画を立てて学習する」「家庭学習時間」の項目については、依然として小・中ともに全国平均を下回っていますので、家庭学習を進める上での学校の指導の在り方を見直し、家庭・地域と協働した取組を充実させていきます。

◆ 福津のよさに学び，貢献する子ども

今住んでいる地域の行事に参加している。
（当てはまる，どちらかと言えば当てはまる）



地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがある。
（当てはまる，どちらかと言えば当てはまる）



□「地域の行事に参加している」の項目は，全国平均とほぼ同じですが，「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがある」については，小・中ともに初めて全国平均を上回りました。これは，各学校における総合的な学習の時間やふるさと学習をはじめ，地域ボランティア活動の取組の成果であり，地域に貢献する喜びや地域の一員としての自覚をもった子どもの育成にもつながっています。

今後はさらにコミュニティ・スクールの機能を生かした取組を充実させ，地域に誇りをもち，地域の一員としての自覚を高めていきたいと考えています。